

< 沖縄県立読谷高等学校 >

芸術科 書道授業シラバス

| 教科 | 科目名 | 単位数 | 学年 | 学級 |
|-----|------|-----|------|------------|
| 芸術科 | 書道 I | 2 | 1 学年 | 5, 6, 7, 8 |

1 学習目標

| | | | |
|------------|---|------|--|
| 学習の到達目標 | 書道を楽しむ態度をとおして感性を豊かにし、さまざまな場面に対応する書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力をのばしていく。 | | |
| 使用教科書・副読本等 | 光村図書 「書 I」 | 学習形態 | |

2 学習計画

< 評価の観点 > 1 関心・意欲・態度 2 話す・聞く能力 3 書く能力 4 読む能力 5 知識・理解

| 学期 | 月 | 学習内容 | 学習のねらい | 評価の観点 評価規準 | 備考 | 考查 範囲 |
|---------|----|--|---|---------------|----|----------|
| 1 学期 | 4 | 書道の学習を始めよう | 執筆法・用筆法や用具・用材について知り、書道の学習における基本的な事項を理解します。 | | | |
| | 5 | 一 漢字仮名交じりの書の学習 (一) 1 書道に親しむ 2 書写からの展開 3 さまざまな表現 | 身近な言葉や詩文を題材に、漢字と仮名の調和を図り、用具・用材や字形・文字の大きさ等の全体構成を工夫して、自分の意図に基づく表現の方法を学びます。 | | | |
| | 6 | 漢字の書 二 楷書の学習 1 さまざまな楷書 2 厳正と温雅 3 重厚と軽快 | 漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。 代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの古典について、作者や時代背景などの知的理解をします。 基本的な点画や線質の表し方と、用筆・運筆の関係を、臨書学習により習得します。 | | | |
| | 7 | 4 方勢と円勢 5 楷書の鑑賞と臨書 | これらの活動を総合し、各古典の特徴を把握し表現する方法を学びます。 | | | |
| 2 学期 | 9 | 三 行書学習 1 さまざまな行書 2 行書の特徴 3 開亭序の鑑賞と臨書 4 争坐位稿の鑑賞と臨書 5 風信帖の鑑賞と臨書 | 行書の特徴についてりかいます。 代表的な行書の古典を鑑賞し、作者や時代背景等関する知的理解を経て、臨書学習により各古典の特徴を把握することにより行書の基本的な用筆法を習得します。 | | | |
| | 10 | 楷書・行書による創作 楷書・行書による作品の鑑賞 五 篆刻の学習 1 篆刻について 2 篆刻の用具・用材 3 刻る手順 | 学習した楷書または行書の古典を題材とし、習得した技法を生かして創作を行います。 姓名印を刻し創作作品に押印します。 | | | |
| | 11 | 八 仮名の書の学習 1 仮名の成立と発達 2 仮名の種類 3 用具・用材とその扱い方 4 基本的な筆使い | わが国独自の文字である仮名について、成立過程と字源について理解します。 平仮名を中心とした仮名の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。 | | | |
| | 12 | 5 平仮名 6 変体仮名 7 連綿 | | | | |
| 3 学期 | 1 | 8 蓬萊切・高野切第3種の鑑賞と臨書 9 全体構成の工夫 10 寸松庵色紙の観賞 11 大字による表現と鑑賞 | | | | |
| | 2 | 九 漢字仮名交じりの書の学習 1 言葉と表現 2 用具・用材の工夫 3 文字の大きさ、全体の構成 | これまでに学習した漢字及び仮名の古典の学習をもとに、その表現応用した漢字仮名交じりの書の創作を行います。 | | | |

| | | | | | |
|---|--|---|--|--|--|
| 3 | の工夫 4 古名跡を応用して書く 5 漢字仮名交じりの書の表現 6 硬筆の学習 | 詩文、形式、用具、用材、構成などを工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考え、自分の感性をどのように表現していくかについて考えます。 | | | |
| | | | | | |
| | 年間の評価 | | | | |
| | 学習アドバイス | | | | |